

クエ卵巣内に残留した卵塊の摘出と成熟への影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀田, 卓朗, 今泉, 均, 河野, 一利, 山崎, 哲男 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014548

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



クエ卵巣内に残留した卵塊の摘出と成熟への影響

堀田卓朗・今泉 均・河野一利・山崎哲男

クエの親魚養成において、排卵された卵が卵巣腔内に残って塊となり、これが原因でその後の採卵に支障を来たす問題が生じている。このため、外科手術による卵塊の摘出を行い、手術による親魚の死亡状況とその後の成熟を調査した。その結果、手術が直接の原因と考えられる死亡はなかった。さらに、手術約5ヵ月後の産卵期に成熟を確認し、1個体からは人工授精で42万粒の受精卵を得た。卵塊の摘出は、その年の成熟に影響を及ぼさないために、古満目事業場では4月中旬には縫合部が治癒している必要があり、2月末頃までに行う必要があると判断された。

栽培技研, 31(1), 1-4, 2003